

## 17. ロボット倫理学

(1) **電王戦と羽生名人の「直感」** ロボットは将棋で人間に勝つと思いますか？

(2) **ロボット3原則** SF作家アイザック・アシモフ 1. 人間への安全性 2. 命令への服従 3. 自己防衛

(3) **映画 AI**

**新・白虐の詩 ロボット小雪** この格差という社会のシステムは人間を幸せにするのか？ 純粋な感情を持ったロボット小雪を通して描く衝撃の未来像（ものがたり）、鬼才・業田良家がこの国の未来を描いてしまった!!

(4) ロボットに感情を持たせてもよいか

(5) ロボットに小説を作らせることは可能か

(6) 人間とロボットの違いとは？

### フィネアス・ゲージとソマティック・マーカー仮説

この損傷は、腹内側前頭前野 (vmPFC) が中心であることがわかった。



驚きや恐怖があると、交感神経の働きによって汗腺の液の分泌が増加するので、皮膚の電気抵抗が低下する。これを利用して、有名な景色や抽象的なスライドに交えて、情動的な内容を示すスライド（恐怖や肉体的苦痛の状況、露骨な性描写）を示す**皮膚伝導反応実験**を行った。**アイオワ・ギャンブル グッドガイ・バッドガイ実験**

### 参考文献

1. Patrick Lin, Keith Abney and George A. Bekey (eds), *Robot Ethics: The Ethical and Social Implications of Robotics*, The MIT Press 2012.
2. [▲](#) 例えば Human Rights Watch, *Losing Humanity: The Case against Killer Robots*, <http://www.hrw.org/reports/2012/11/19/losing-humanity-0> (2012)や P. W. シンガー『ロボット兵士の戦争』（日本放送出版協会、2010年、小林由香利訳）を参照。
3. [▲](#) 例えば Anderson and Anderson, *Machine Ethics* (Cambridge University Press, 2011)、Wallach and Allen, *Moral Machine: Teaching Robots Right from Wrong* (Oxford University Press, 2009)などを参照。
4. [▲](#) ロボットの道徳的行為者性については Floridi and Sanders, "On the morality of artificial agents" (*Minds and Machine*, Vol. 14, 349-379, 2004)や Wallach and Allen, *Moral Machine: Teaching Robots Right from Wrong* (Oxford University Press, 2009)などを参照。
5. [▲](#) YouTube, "Introducing Spot," <https://www.youtube.com/watch?v=M8YjvHYbZ9w> (2015年2月28日閲覧)
6. [▲](#) CNN.co.jp, 「『ロボット犬』でも蹴っちゃダメ？ 倫理をめぐる議論盛んに」。 <http://www.cnn.co.jp/tech/35060457.html> (2015年2月28日閲覧)。
7. [▲](#) ロボットが道徳的配慮の対象になりうるかという問題については、例えば、Floridi, "Information ethics: On the philosophical foundation of computer ethics" (*Ethics and Information Technology*, Vol. 1(1), 33-52, 1999)あるいは Gunkel, *The Machine Question: Critical Perspective on AI, Robots, and Ethics* (The MIT Press, 2012)（特に第2章）を参照。